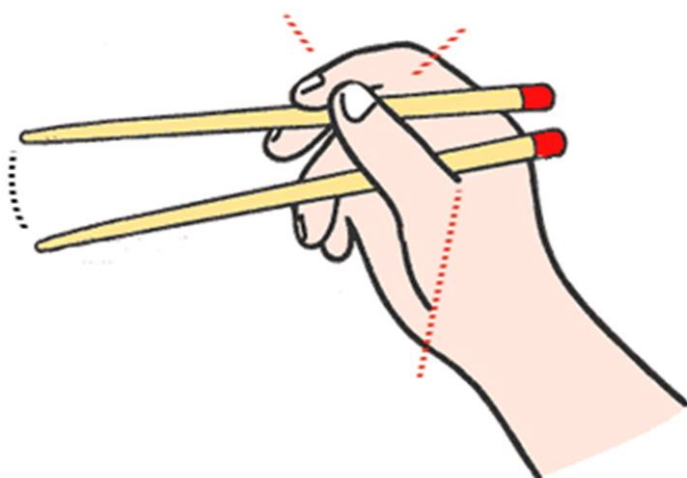


正しい箸の持ち方

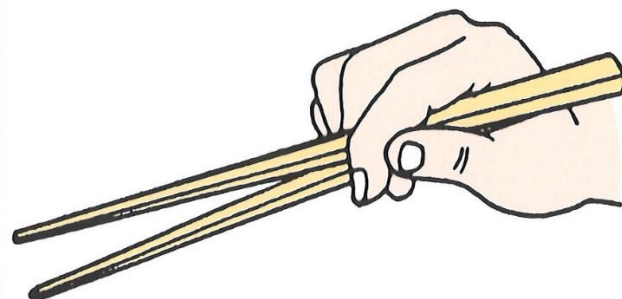
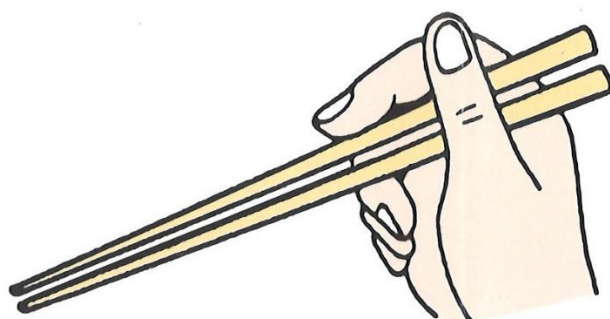
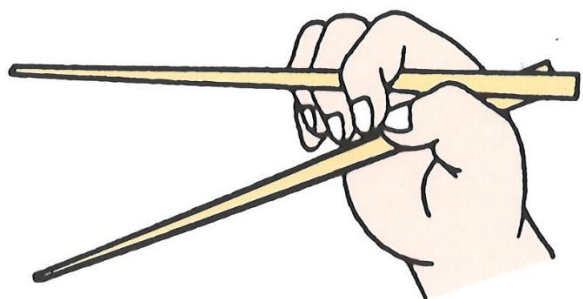
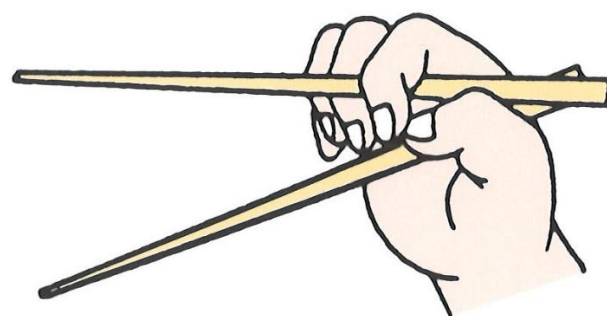
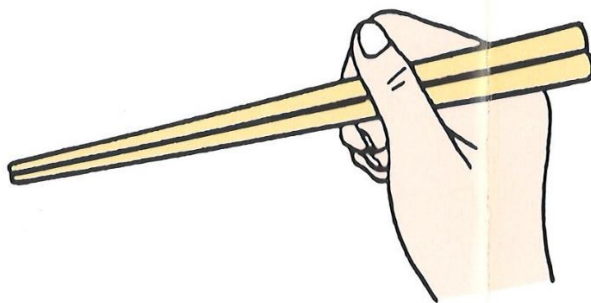
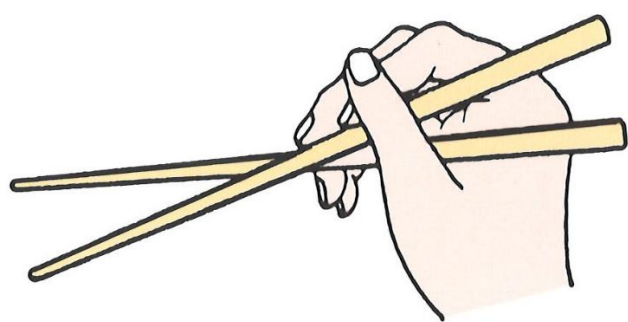
スプーンの握り持ちが安定してきたら、「5本の指を思ったとおりの形に動かせること」「指先にある程度の力を入れられること」などの姿を担任と確認し、遊びの中でお箸の練習を開始します。お箸を上手に使えるようになるには「正しく持つこと」が大切です。お箸を使っている子の姿に刺激され、スプーンを正しく持って食べようとする意識がでてきた子もいます。無理せず一人ひとり様子をみながらすすめています。

子どもたちに伝えている正しい箸の持ち方です。



箸で食べられても、正しく箸が持てていないこともあります。

間違った持ち方です。



間違った持ち方で癖がついてしまうと、正しい持ち方に直すのに時間がかかってしまいます。箸で食べられている＝正しい持ち方で食べている ではありません。箸の使い始めは丁寧に見てあげることが大切です。